

※※※ 記 事 ※※※※※※※※※※※※※※※※

消 息

第二一回北陸医史学同好会例会・総会

北陸医史学同好会の第二一回例会・総会は、平成一一年七月一日に富山県民会館において開催された。

午前の演題終了後の総会議事において、平成一〇年度の事業報告が報告された。会員は福井県が一〇名、石川県が一八名、富山県が一二名、地域外の会員が一二名で、五二名の会員を擁することになる。事業としては、第二〇回例会・総会が平成一〇年七月一二日に金沢市でおこなわれ、二題の特別講演と七題の一般講演がおこなわれた。今年の二月二日に幹事会と同じく金沢市で開催され、『北陸医史』第二〇巻が発刊された。

平成一一年度の事業計画としては、昨年同様、例会・総会の開催と、『北陸医史』第二二巻の発刊が予定されている。

さらに平成一〇年度収支決算書と平成一一年度予算案が原案通り可決されて、総会議事はつつがなく終了した。

例会の特別講演は、岩治勇一会長座長のもとに、五〇分にあたる寺畑喜朔先生（高岡市）の「北陸における蘭学の発達」がおこなわれ、会員に多大の感銘をあたえた。

一般演題は次の六題がおこなわれ、いずれも地域に根ざした、意義深い講演であった。

- 一、高岡長崎家伝蔵書簡の研究（二） 正橋剛二（富山市）
- 二、山形県庄内の蘭方医たち 大瀬欣哉の「庄内の蘭医について」を軸にして 佐藤允男（山形県）
- 三、幕末期「郷医」の後継者教育の一例——門屋養安日記から 助 昭三（金沢市）

四、「資料」医範堤網内象銅版図（金沢大学医学部付属図書館蔵）について 岩治勇一（大野市）

五、北陸における日本薬学会発足小史 山本郁男（金沢市）

六、土肥慶蔵と初代大阪府立医学学校教諭 桜根孝之進

長門谷洋治（堺市）

なお会場で、『解体新書』の扉絵とともに、その扉絵をかたどった銅版レリーフ像の温度計（バイエル社製 三・一cm×四・五cm 岩治勇一蔵）が供覧された。現在のところ、この像の制作年代は不明なので、ご教示願えれば幸いである。

（岩治 勇一）

洋学史一九九九年研究大会 平成十一年十月九日（土）

明海大学（浦安市）新研究棟四三〇一会議室

大会共通テーマ「喜望峰とケープタウンと江戸の蘭学」

一、ポルトガルとオランダの航海術「喜望峰を越えて」

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 一、異境に憧れし人と魅せられし人と   | 山田 義裕 |
| 一、オランダ植民地としてのケープタウン | 片桐 一男 |
|                     | 桜井 隆  |

